

# 約2か月間で3回の採卵を可能とする

## 牛の過剰排卵処理技術を開発

畜産研究所

受精卵移植技術は、優れた資質を持つ子牛を効率よく生産できるため、県内では主に繁殖肉牛農家で活用されています。受精卵は、雌牛にホルモン注射を行い、たくさんの卵子を排卵(過剰排卵処理)させ生産していますが、**従来は卵巣への負担を考慮して年間3~4回の処理が限度**でした。

今回、従来よりも少ないホルモン量で、**約2か月(72日間)で3回連続採卵**できる方法を開発したので紹介します。

### 採卵間隔を大幅に短縮

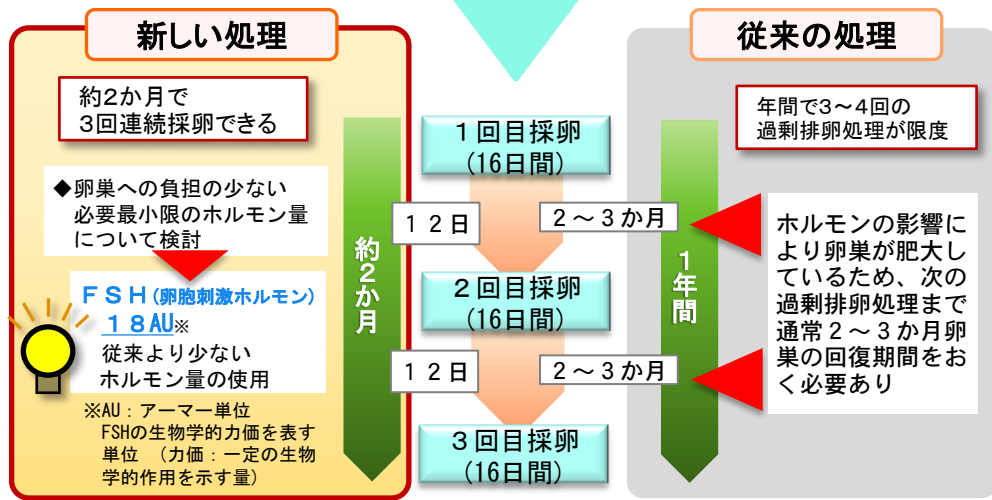
採卵一回あたりの内容	0日目	4日目	6日目	7日目	8日目	15日目
0日~15日(計16日間)	午前(9:00) シダー挿入 PGF2α投与	FSH※ 1回投与	シダー 抜去			採卵 PGF2α投与
	午後(16:00)			発情 GnRH	人工授精	

用語について

- ① **シダー** 膈内留置型黄体ホルモン製剤
- ② **PGF2α** プロスタグランジンF2α製剤
- ③ **FSH** 卵胞刺激ホルモン
- ④ **GnRH** 性腺刺激ホルモン放出ホルモン

使用薬剤・投与量

使用薬剤	投与量
① シダー又はイージーブリード	(1本)
② エストラメイト	3mL
③ アントリン	18AU/50mL 生理食塩水
④ イトレリン	2.5mL



- 投与の目的
- ① 発情同期化
  - ② 黄体を退行させ発情誘起
  - ③ 多数の卵胞を发育させる
  - ④ 排卵を誘起

### ポイント

18AUのFSH(アントリン)を50mlの生理食塩水に溶解し牛の頸部皮下へ投与する。



\* FSHが皮下に貯留し緩やかに吸収される。

表 FSHの投与量と採卵成績 (3回の合計)

FSH投与量	黄体数	採卵総数	正常卵数
15AU	18 ( 6.0)	14 ( 4.7)	8 ( 2.7)
<b>18AU</b>	<b>37 (12.3)</b>	<b>35 (11.7)</b>	<b>20 ( 6.7)</b>

( ) 内は平均値

開発した方法

### 注意事項

- ◆ FSHは皮下へ注射し、注射部位は揉まないこと。
- ◆ 採卵後はPGF2αを必ず投与し、1週間前後に発情が見られない時は次の過剰排卵を中止する。

お問い合わせ

畜産研究所 繁殖技術肉牛部 (Tel.0175-64-2231)